

会 議 録

1 会議名

平成26年度 第5回和田区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

(1) 諮問事項 こどもの家の廃止について（公開）

・しちかしよこどもの家の廃止について（諮問）

・しまだこどもの家の廃止について（諮問）

(2) 地域協議会会長会議について（公開）

(3) 意見交換（公開）

・地域活動支援事業について

・和田区のこれからを考える

3 開催日時

平成26年12月10日（水）午後6時30分から午後8時25分

4 開催場所

ラーバンセンター 第4研修室

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

なし

7 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

・委 員：植木泰行、大島政義、小林春男、鈴木 孝、高島信雄、前川正治、
水澤俊彦、宮下浩二、八木文夫、横田晃一、横田直幸

・事務局：南部まちづくりセンター 橋本センター長、森田係長、敷波主任
こども課 笠原課長、佐々木係長、黒津主任

8 発言の内容

【森田係長】

皆様足元の悪い中、今日はお疲れ様です。ありがとうございます。定刻になりましたので、本日の出席人員の確認を行わせていただきます。本日の出席人員は今の

ところ、11人です。欠席の御連絡をいただいていますのが、秋山委員、有坂委員、斉藤委員の3名の皆様です。橋本委員については、今確認していますのでよろしくお願い申し上げます。

上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席がありますので、会議が成立することを報告します。同条例第8条第1項の規定により、議長は会長が務めることとなります。横田会長よろしくお願いたします。

【横田会長】

皆さんどうも大変お寒いところ、お忙しいところありがとうございます。お集まりいただきまして。御報告があったとおり成立しますので、只今から第5回和田区地域協議会を開催させていただきます。こども課の皆様、大変御苦勞様です。

初めに本日の議事録の確認者についてであります、小林委員さんのほうからお願したいと思しますので、よろしくお願いたします。議事録の確認のほうです。

【小林委員】

すみません、ちょっと私、何をすればいいのか全然分からないんですけど。

【横田会長】

議事録できたやつを、あとで事務局が用意しますので、これで良いよと確認をしていただきたい。

【小林委員】

ああ、それですか。

【横田会長】

順番になってますのでね。はい、よろしくお願いたします。

【小林委員】

分かりました。失礼しました。

【横田会長】

ではですね、次第2「議題の確認」について事務局からお願いたします。

【橋本センター長】

— 資料・議題の確認 —

【横田会長】

ありがとうございました。本日の会議は2時間ほどを予定しております。8時半頃になりましょうか。円滑な会議の運営に御協力のほど、よろしくお願いいたします。

次に、次第3議題(1)「諮問事項 子どもの家の廃止について」に入らせていただきます。本日は諮問第8号「しちかしよ子どもの家の廃止について」と諮問第9号「しまだ子どもの家の廃止について」合わせてこれから説明していただきます。子ども課の皆さん、よろしくお願いいたします。

【子ども課 笠原課長】

— 資料に基づき説明 —

【横田会長】

はい、ありがとうございました。今ほどの御説明について、これからあの質疑、御質問いただきたいと思います。いかがでございますか。

はい、前川委員さん。

【前川委員】

先ず第一点なのですが、譲渡に伴う修繕は、市が全額補助する。譲渡後は町内会ということになっているんですが、譲渡後の修繕の金額が大幅に掛かるような状態であっても、それは市は一切予算がないために、それに伴う修繕はしませんよということなんですか。

【子ども課 笠原課長】

はい、ありがとうございます。先ず、建物は中と外がありまして、外のことにつきましてはしっかりと修繕しますので、外側についての先ず影響は全部修繕することになっています。それから中につきましても、今、実は今年度中に全てこう悪い場所といいますか、例えば襖がどうだとか、床がベコベコしているとか、そういうものをみんな洗い出して、それを今年度中に全て修繕して、一応きちんとした形にしてお引渡しするということになっておりますので、今後その大幅な大きい修繕というのは多分ないだろうというところまで、かなり手を入れて修繕しております。

【前川委員】

というのはね、例えばの話、台風が来て屋根が外れたとか、外壁がポンと大きな

破片が当たったということ。そういう状態です。

【こども課 笠原課長】

それにつきましては、基本的に町内会館、要するに皆さんお持ちの町内会館と同じ対応になりますので、その修繕につきましては、例えば大きな災害であれば、災害のほうで国からお金がおりてくる場合もありますし、通常のそういう修繕であれば、市の町内会館に対する修繕が250万円上限で予算がありますので、そちらのほうの補助を受けながら各町内会で修繕していただくということになります。

【横田会長】

よろしいですか。

【前川委員】

はい。

【横田会長】

他に御意見、御質問。

はい、鈴木委員。

【鈴木委員】

二つほどお願いしたいと思いますが。一つは、基本方針です。ここでは、遊び場としての機能は今後も維持していきまうとしていますが、今後、維持できる期間は何年先まで可能と計画されているんですか。

もう一点は、いろいろと手続きがあると思いますが、移転するための登記料、それからその後の資産の課税についてはどのような考え方なんでしょうか。

【横田会長】

はい、笠原課長さん。

【こども課 笠原課長】

先ず遊び場の機能につきましては、これは皆様方の各町内会に我々のほうとしては、当分の間ということでお話ししています。それは、当分の間というのは1年や2年ということではなくて、いわゆるこの全体として、子どもさんの遊び場の機能というものを市としてどうしていくのだからということの方針を出さなきゃいけないと思っています。例えば、放課後児童クラブというものが小学校にありますけども、特にその放課後の子どもさんの居場所というものをどういうふうにしていく

のか。これは今、教育委員会のほうで、それぞれの小学校の放課後児童クラブをどうするのかということで検討しています。そういうことで、そういう子どもさんの居場所というものを、市としてどういうふうに確保していくのかという中で、これが段々整理されていく内容なんだろうというふうに思っているところなんですね。基本的にやはり、御町内で遊び場というのは、地域の子どもは地域で確保していただきたいというところが私どもありまして、そういうことでは、例えば建物があればお子さんを遊びに、例えばいつでも通ってもらったり、管理人がいなくてもお子さんが遊びに来るということもできるんだろうということもお話ししてありますが、ただこの当分の間というお答えとすれば、すぐに1年や2年ということではなくて、基本的には、その市の全体としての子どもの遊び場の居場所をどうするかと、そういうことの検討の中で、この遊び場をどういうふうにしていくのかというのを、今後考えていくということになります。

それから二点目です。登記に関する費用につきましては、これは市が全額負担するということでしております。それから課税につきましては、非課税扱いということになります。

【横田会長】

はい。よろしいですか。

【鈴木委員】

いいですか。

【横田会長】

挙手の上、発言をお願いします。はい、どうぞ。

【鈴木委員】

当分の間ということの考え方ですが、まあそういう考え方も良いでしょうけど。例えば6次総の間は継続をしますとか、ま、5次総終わっての6次総に向けて、確実に大丈夫ですよという、その辺のところ、具体的なほうは、各関係の町内会のほうに話してほしいと思うのですが、その辺は行政の考えもあるでしょうから、勘案してほしいと思いますけど。

【こども課 笠原課長】

ありがとうございます。確かに御町内の方には、その当分の間というのはどのく

らいただと、同じ御意見がございました。ただその、私は子どもの遊び場というものを、行政が管理人を置いてきちんと見るというのが良いのか、それとも御町内の中で、例えば、なんていいますかね、大人の方が「おらちが見てるから、子ども遊びに来ない」という形が良いのか。それはいろんな形があると思いますが、私はやはりそうするなら、御町内で建物はありますから、「いつでも遊びに来ないね」というような形が多分一番良いだろうというふうに思っているんですね。その中で、いつまでも市がそこにこう管理人を置いて見るということが良いのかというと、やっぱりそこは、御町内が自分たちの子どもをきちんと確保していくというほうに向いていくのが、本来のこう在り方なのだろうと思っているところです。ですので、いつまでということよりも、そういう形をきちんと作りながら、準備をしながら、そういうことを皆さんに御理解いただいて移行していくということが良いのだろうというふうに思っています。ただそれが、すぐに明日、明後日、1年、2年ということではなくて、やはり当分はそうは言っても、そういうふうに移行するまでの間の受け皿としての準備、行政としてどこまでやるのか、それから地域の方にこういうことをお願いしたいということを行政側としてしっかり決めて、地域のほうにもう一度お話ししなければならないと思っているところですので、そういうスタンスで向かわせていただきたいというふうに思っておりますので、その旨は関係町内会にもお話ししているところであります。

【横田会長】

はい。他にいかがですか。

はい、八木委員。

【八木委員】

私、七ヶ所町内会なんですけれども、植木市長の頃にこのこどもの家というものが、時代の、子どもたちのための養護・教育という形でもって造られたものであって、しちかしよこどもの家という名前がございまして、大和各町内が一堂で遊び場という形でもって進めて参りました。だから、五丁目、四丁目、三丁目…。一丁目、二丁目は当然近くですのであれですけれども、子どもたちが学校終わったあとね、非常に、こどもの家へ来て遊んだり、だいぶ広いですのでボール遊びをしたり、卓球したり、バドミントンをしたり、2階の図書室で、あるいはオルガンとか

ってね、いろんな滑り台とかってありますのでね、非常に楽しく遊んでいます。長い年月の中で、確かに遊びに来る人たちも徐々に、だんだん減っては来ているんですよ。それとあの経費的な面でね、全て市のほうから、消耗品だとか、ガス、それから電気料、水道料、この辺も市のほうから、当初から御負担願ってきたわけです。その辺はねちょっと、こういう提案が、私が何年も前に町内会長をやっている頃にも話が出てきたんですよ。でもあの頃は、やはりちょっと設立の趣旨から言って、段々そのね、かけ離れた形で進めるというのはいまよくないんじゃないかなという感じがしました。ただいろいろな面を見て、かつ、今回市のほうからも、大和一丁目ですけれども、七ヶ所新田とのほうに先ず優先していかげなものか、こういうあれですけれどもという説明があり、かつ、町内会が役員会を通して、いろいろと町内でもって経費負担しなければならない面もあるけれども、町内の実態から言ってそれを負担できるのかということで検討いたしました。このくらいなら、個々に项目的に予想金額を出しまして、このくらいなら町内会で負担ができる、ただし、管理人の管理費用といいますか、手当については市がもっていただかないとうまくないでしょうということで、それは市のほうも了解をいただくという形で、この進め方についても、非常に一方的なあれじゃなくて、十分に地元と話し合った中でもって進められたということですので、これについては、町内会の総会に諮りまして、こういう提案があるけれどもこういうスケジュールでやる予定だということなので、是非皆さん御了解いただけるか。で、異議なしという形でおりますので、多少町内会が負担する部分についても、先ほど言いましたように、了解の上でもって話が進んでおります。

【横田会長】

はい。何か格別回答のほうは、答弁のほうはよろしいですか。何か発言してもらいますか。

【八木委員】

はい。

【横田会長】

もしありましたら。

【こども課 笠原課長】

ありがとうございました。本当に、しちかしよこどもの家は大和二丁目さんだけではないんですね。当時も非常に地元の中で御苦労されて、どこが受けるんだとか、ただ地元がやっぱり受けなければいけない、他の町内の子どもたちが来てもやはり地元としてきちんと受けなければいけないということで、だいた、その御町内の中でもいろいろお話し合いをしたり、他の町内会ともこう協議しながらですね、最終的にこのような形にこう落ち着いたということの経緯であります。そのためには、受けるところの御町内がかなり、ある意味この英断といいますか、していただいたところがあるんじゃないかなと思っています。そういった意味では本当に感謝しておりますし、こどもの家の遊び場の機能というものをしっかりと市としてもお手伝いしながら、維持していくのだろうと思っていますので、また引き続きよろしくお願いします。

【横田会長】

はいどうぞ、植木委員。

【植木委員】

ざっとお話を伺っているのです。何で譲渡をしなければいけなくなったのかという、そこら辺はどういうことなのでしょう。

【こども課 笠原課長】

先ず、こどもの家だけではなくて、今、市として様々な施設というものを、例えば存続させるかどうか。合併して同じような施設がいろんなところにあったりするわけですね。そういうものをどのようにやっていこうか。一つは行政改革ということで、経費の縮減を図っていこうというのが一番大きなところにありますけれども、そういうふうなことで、じゃ地元のほうにお譲りできるものはないかということでも、いろいろこう他の施設でもそうです。公民館もそうですし、地域にある農村集落開発センター、そういうのもみんなそうですね。そういうのを全て、そういう目で、行政改革の視線でできるものはないかというふうに全部洗い出しをしているんですね。行政改革というのが一つ根っこにあります、これからの財政ということですね。その中で、こどもの家というものの使い方の実態を見ますと、ほとんどが、いわゆる町内会館としてお使いになっているということが多かったというわけですね。ですのでそういうものは、ほかのところは御自身で、町内でお金を出し合っ

て町内会費を払っていて、それからまた修繕も同じそれでやっている。片方はこども家があって、そこは町内会として使ってはいるけども、その負担はないということがございましたので、やっぱりこういうものは公平性の観点から、それからやはり行政改革の観点からも、この施設というものをきちんとやっぱり町内とお話しして、譲渡していったらどうだろうということが、そもそものところであります。

【横田会長】

他、いかが…。

はい、高島委員。

【高島委員】

37施設のうち34施設を譲渡されるんですけれども、これに伴って、施設修繕だとか水道、光熱費、それから消耗品の年間経費、市はどのくらいとれるんですか。

【こども課 笠原課長】

ああ削減の？

【高島委員】

削減。

【こども課 笠原課長】

削減は、全体で800万ぐらいですかね。

【高島委員】

800万も？

それからもう一つ。これは多分、旧上越市内だけの建物ですよ。上越市が広域合併した中で、こういう施設のない地域もいっぱいあると思うんだよね。安塚のほうだとかね。ああいう地域の人たちから、なんかやっぱり偏った施設の造り方をしないようにというような、そういう意見もあるんですか。そういうのはないんですか。

【こども課 笠原課長】

特にそういうことは、周りの区の方からということはありません。

【高島委員】

ただ、経費削減のためのひとつとして、こういう公民館、こどもの家という重複するような施設を、なるべく市が手を引いていくというような考えなんですか。

【こども課 笠原課長】

そうですね。やはり全部見るとなると経費が掛かりますから、例えばエリアごとにどこにこう、例えば公民館であれば、ここにもあってすぐ周りにもあるということではなくて、であれば一つに集約しようかというような視点では見えています。なるべく皆さんの使い勝手というところも考えながらも、これは潰しても良いかなとかこれは譲渡できるんじゃないかなという視点で見ていると。

【高島委員】

かなり時間をかけてこどもの家の廃止を検討されてきたようですねけれども、地区の説明会の中でもって、反対意見というのは、かなりあったともんですかね。

【こども課 笠原課長】

はい、そうですね。やはり当初は、地域の中でこれを譲渡を受ける、結局その分町内会の負担は増えるわけですから、当時はこれを譲渡という形での反対という意見はありました。

【横田会長】

はい、他の方で御質問ございますか。

いろいろね、やり取りしていただいたわけなんで、そろっとまとめに入りたいなと思って。ではですね、そろそろこの辺で結論を出したいと思いますが、いかがですか。よろしいですか。

方法は挙手の採決でいきたいと思いますので、よろしくお願いします。それから1問ごとにやらせていただきます。

では、資料No.1の「諮問第8号しちかしよこどもの家の廃止について」、諮問事項について適当と認めるという方の挙手をお願いします。挙手でお願いします。

(全員挙手)

続いて資料No.2の「諮問第9号のしまだこどもの家の廃止について」、諮問事項について適当と認めるという方の挙手をお願いいたします。

(全員挙手)

はい。出席委員全員で適当で認めるということに決しましたので、ありがとうございました。

では、議題1号の「諮問事項のこども家の廃止について」はこれで終わりますが、

こども課の方、大変どうも御苦労さまでございました。ありがとうございました。

【橋本センター長】

会長、付帯意見かなんかもしあれば。

【横田会長】

付帯意見はありますか。

(挙手なし)

付帯意見はなしですね。

(よしの声あり)

— こども課 退席 —

では、報告事項に入らせていただきますが、次第4報告事項(1)「地域協議会会長会議について」の内容に入ります。

去る11月25日に地域協議会の会長会議が文化会館で開催されました。私はこの会に出席して参りましたので、その内容について概要を御報告させていただきます。資料のほうはNo.4になります。それに沿って御報告を申し上げます。

— 資料に基づき説明 —

簡単に申し上げたわけではありますが、この辺について何か御質問、御意見ありましたら承りますが、いかがでございましょう。

みんな結構ね、一生懸命活発な意見を出されて、市のほうも率直にね、これに対応されて、年々身のある会議になってきているなという印象でした。格別によろしいですか。

(よしの声あり)

要の地域活動支援事業は変わっていないようだ、基本的には26年度と一緒だとなっております。では、これについて、報告を終わらせていただきます。

次に、次第5の「意見交換」に入らせていただきます。

これは二つの課題がありますが、だいたい30分、30分でどうかなと一応目処をつけてございますが、今日は二つのテーマで意見交換に入りたいと思っております。

一つ目は、地域活動支援事業の提案がより活発になるように、どう取り組んだら良いかということでございます。

市の制度上は先ほど申し上げたとおり格別な変更はございませんが、一言で申し上げれば、和田区の提案が広く活発にするにはどのような方法が良いのか、どのような形が良いのかということ、皆さん方からいろいろアイデアをいただいて、そして要するにできるところから取り組んでいくということ、今日皆さん方の中からある程度見出していければ良いなと思っております。

そして二つ目であります、先日、市の創造行政研究所の内海主任研究員のほうから、和田区の人口と世帯数の動向についての情報提供をいただき、その後、和田区のこれからについてどうしようかということ、話し合うということになっておったわけでありまして。今日は、二つ目としては、そのことの、この間、提起のあった、話し合ったことについての、そこからの課題を導き出したいなと、それを抽出できたら良いなと、こんなふうにご二つ目を考えております。

資料はNo.5を御活用いただきたいと思っております。時間の関係もありますが、分けるとかそういうものでなくて、この場でもって今日やっていきたいと思っております。

ではですね、先ず一番目に、地域活動支援事業がどうやったらより多くなっていくか、この辺について皆さん方からいろいろ話を出していただきたいなと。御意見なり御提言をいただきたいなと。そして、協議会として、あるいはお互いに委員としてできることから手を付けていければ良いなと思っておりますので、よろしくお願いいたします。なお、これについては、ちょっと時間早めにきておりますが、大体30分くらい、7時45分ころですかね、その辺の目途で一つの答えを出せば良いなと思っておりますのでよろしくお願いします。

ちょっと長くなりましたが、では一番目の「地域活動支援事業について」どうしたらいいかというところを、資料の5のですね大和倶楽部の懇談の内容も含めて、あるいは含めてといいますかね、この辺から中心に話し合ったらどうか。そうすると前後のつながりも出てまいりますので、よろしくお願い申し上げます。

資料5の地域活動支援事業の提案の活性化、大和倶楽部の懇談、10月の23日に実施した主だった内容を、事務局のほうでまとめてもらっております。一つこれから、積極的な発言をいただければありがたいなと思っております。

先ずはこれをベースにして話できれば良いなと思っておりますのでよろしくお

願います。先ほどからもお願いしておりますとおり、挙手をもっての発言と、それからできるだけ多くの方から発言していただくために、簡潔なですね、御意見、質問にさせていただければありがたいなと思っておりますのでよろしくお願い申し上げます。いかがでございましょう。発言していただいて。よろしく。

いかがでございましょう。

はい、小林委員。

【小林委員】

前回の大和倶楽部さんとの懇談の中でですね、非常に懇談そのものが有意義であるということと、こういったものをもっとやったほうが良いのではないかという意見が多かったと思いますし、私もそう思うんですが。

各地域のリーダー的存在の方、各町内のそういう方から集まっていたいて、大和倶楽部さんと懇談していただいたような感じで、話し合いの場を作ってもらったらどうかなと思います。まだ、支援事業がですね、各町内の皆さんに浸透していない面があると思いますので、その辺をよく説明したり、事業をやっていただけるようにですね、懇談会を重ねたら良いんじゃないかというふうに思います。

【横田会長】

はい、ありがとうございます。

話し合いは有意義だ、リーダーの集まりあたりはどうかという話。この辺について皆さん方いかがでございましょうか。小林さんの御提案。

前川委員さん。

【前川委員】

その意見に私もまったく賛成でありまして、地域活動事業のPRが足りないのと、いろいろアイデアがあるにも関わらず提案が出てこないというのは、やっぱりその辺に問題があると思います。今、小林さんが言われたように、各町内会長さんを始め、各種団体の代表の方とも一堂に、第一回目の中でもいいですから集まっていたいて、我々の趣旨というものをしっかりと説明して、そして問題点のあるものをあげて、これからどんどん事業を出してほしいという意向を伝えてもらう場を作ってもらいたい。

【横田会長】

大変具体的な話になってありがたいなと思っております。

今、賛成意見ということでございます。小林さんの御意見。

はい、併せて。

【大島委員】

私もそういうふうに思うのですが。やはり各町内からですね、ある程度の、やっぱり各町内にこの支援事業の趣旨というものが浸透していないというふうに、どうしても今のこの現状を見ますとね、そういうことが言える。

「そういうことがあったのか、じゃそれなら私どものほうでこういう考えがあるんだが、それを一つ載せてもらえないか」というようなことが、恐らく出ると思うんです。そんな意味から、やはり各町内のリーダーあたりの方々から、こう集まっていたくことも大事なことはないかなと。何かその辺あたりから見えるのではないかなというふうに思うのですけどね。

【横田会長】

併せて、今の関連と御意見いかがでございましょう。PRとかリーダーとか話し合いを重ねるとかというのが地域活動の上のほうのですね、5項目の中はかなり含まれている部分があって、これをベースにした中で、今の御意見も含めて、皆さん方、いかがでございましょう。

宮下さん、いかがですかね。皆さんおっしゃってきたことの関連で。

【宮下委員】

この前から言っているように、各リーダーを作ってほしい。リーダーが一緒になったほうが良いと思う。非常に賛成しておりますので、やっていただきたいと思いません。

なんかこう一つになってやるようなことやって考えていけばいいんだけど。

それと一つ、大和倶楽部の中身、失礼ですけど、どんな人たちがいるのかなというのがちょっと分からないので、それを教えていただければありがたいなと思うんですけれど。

【横田会長】

では、前段のあれで。ちょっとじゃ、せっかくだから大和倶楽部のことを副会長。ちょっと紹介。

【水澤副会長】

そうですね、先回の大和倶楽部との交流、意見交換会を行なって、役員とあと数名、少数の方しか参加できなかったのも、なかなか全体像が見えなかったのかもしれませんが。大和倶楽部の組織自体は、大和地区に事業所を有する者、若しくは、事業をなされて住所が大和地区にあられる方ということで、上越市内に事業を起こされていて、住所が大和地区にあるという方が対象となる、事業所の責任者と言いますか、または住まいがある、事業者、代表者大体ですが、営業所の長であられる方もいるかと思えます。

設立して30年近くなるかと思えます。もう少し前……35年くらいですね。

歴史はあるんですけども、なかなか今まで活動という活動というのがあまりなかったように思われていて、ここ最近、新しい若い人たちが入ってきてから、いろいろな御意見があり、活動している実態ですが、その中身としたら、単年度で会長三役が変わりますので、毎年三役が入れ替わります。たぶん入って1年、2年で会計だとか、それから副会長だという形で一応役につきますので、全体の会議の流れなどを少しでも早く知っていただいて、打ち解けてもらえるようにというのが趣旨なので。それとあと、月1回の例会ということで、集まるのは月1回だけ。今は第3月曜日になると。

最近、地域活動支援事業に対するの申し込みで、はっぴ作成、それから新幹線ののぼりなどを作らせていただきましたけれども、やはりきっかけというのがなかなか、誰が発案してということじゃなくて、全体でこんな事を提案したらどうかということのを会の中で揉んでこう出てくると本当に素晴らしいんだと思うのですが、やっぱり一人、二人の意見でボンと、会として大和倶楽部が提案するわけにはいかないので。

特に30人弱の会ですから、毎月全員で集まることはほとんどないんですけども、基本的にはやはり、みんなの意見を集約してやはり一つのことをしようということですので。

例えば、今まで地域への寄附だとかいうこともやってたんですけどね。先般、小学校へ陸上大会のユニフォームが古くなってということで寄贈もしました。それから、特別養護学校に対する寄附も2年前にしましたし、かなやの里への寄附もしま

した。

実際、体を使ってとか、行動でというのは少ないように感じていますので、今後はやはり体を使ったアクティビティというか、行動を伴った活動をしていければというふうに考えております。

ちょっと長くなりましたけども、地域のやっぱり青年たちが中心となっていればと思います。私たちも60を定年にしたらどうかということも話が出ていますが、それは年齢ではなくて、若い人たちがこの地域のためにいろんなことを考えてくれればと思って話をしております。

【横田会長】

はい、ありがとうございました。小林さんの発言からずっと、こうリーダー、それからいろいろ懇談、話し合いの機会を作っていこうと、それがPRにもつながると、行動にもつながると、このような話で来ていると思う。この関係、このこと、まだそれ以外にも当然あると思いますが、このことの関係で、もうお一方どなたか。

横田委員、例えばどうでしょうか。

【横田委員】

広く一般に周知してもなかなか意見が出ないというところもありますし、多分一人の意見ではこういう提案はできないと思いますので、リーダーにお願いして地域の意見をまとめて案を出すというのが、非常に良い考えですし、現実的だと思います。

あと、町内のリーダーなのですけども、町内会長さんのような方も良いと思うのですが、町内にもいろんな組織があると思いますので、例えば子供会だったり、町内独自の団体があったりすると思いますので、ある程度の人数の意見が集約できるようなリーダーの方も。懇談会の人数がどの程度になるかにもよるかと思いますが、集まっていたら、お話を聞いていただくと良いのではないかなと思います。

あと、和田地区にある他の団体、水澤さんいらっしゃる商工連合会もそうですし、振興協議会には何回か説明にお邪魔していただいていると思うんですけども、あと南部の企業団地もありますし、七ヶ所の工業団地の協議会もありますし、ちょっと私の知らない団体もいくつかあるかもしれませんので、そういう方たち、ある程度意見が集約できるリーダーの方に集まっていたら良いのではないかなと思

います。

あと、説明の仕方なんですけれども、どうしても協議会のパンフレット1枚だけだと何ができるか分からないので、人数的に、時間的にできるかどうかは分かりませんが、事例を交えた、各団体に則した事例を交えた説明が開けると良いのではないかなと思います。以上です。

【横田会長】

はい、ありがとうございました。じゃちょっとあの、ここでこの点をちょっとまとめさせていただきたいと思いますが、前提は、具体的な実施については、また事務局側のほうといろいろ相談にのっていただきながら、またもう一回プログラムができれば皆さんにお諮りしてやっていくという考え方で良いですかね。そんなふうなことを前提にして、今の1点目の、どう活性化する方策については、やっぱり話し合い、懇談をやろうと。それからリーダーから募ってもらいましょうと。それから、町内会とかいろんな組織もある、そういった広がりを持とうと。更にその内容は、できるだけ具体的に分かるような事例なんかも入れながらと。このようなことで一つ取り組んではどうかということ、今ほど6人の方から御発言いただきました。このことについて、この1点目については、先ず取り組んでいこうというところに、ポケットに入れて、準備とか検討をしていくことでよろしいでしょうか。これよろしいですか。御賛同いただけますか。

(よしの声あり)

では、一つまとまったその1として、次にこういう手もあるよと、これもどうだということ、もう少し時間がありますので、続けさせていただきたいと思います。

いかがでございましょう。

はい、どうぞ、大島さん。

【大島委員】

はい。大和倶楽部というと、ややスポーツ的な匂いがする。そういうような感じがするわけですが、あるところによると、大和倶楽部とは申しませんが、大和倶楽部のような組織を持った人たちが、「こういう人たち、集まれよ」と言って、区内にある三校の子どもたちを集める。そして、柔道をやらせる、それは倶楽部の中に柔道に長けた人がいる。あるいはまた、「こういうことをやるぞ、集まれ」と

言って、子どもたちを集めて、音楽指導をやっているという、そういうふうなですね、指導者がそのクラブの中にいましてね、そしていろんな大会に出て入賞したり、あるいはまた自信を持って帰ってくるというふうな場を与えているということで、なかなか活性化していくという話があるのですが。

今、お話を聞きますと、経済的な、やや支援というふうなことに重点を置かれているというような話がありましたし、やはり先ほど来、出ております、リーダーの方々の話し合いというような中心に、そういうことを考えてみたらどうかなというふうに思うんですが。そうすると和田の子ども、大和の子ども、どの学校の子どもも、中には女の子でもって相撲に強い者もいるだろうし、あるいはまた柔道で強い者もいるだろうし、スポーツで言えばですね、そういうふうなことが考えられるのではないかなと。現にやっているところがございます。そんな感じを受けるのですが。クラブとしてはそういう点はちょっとこう、あれでしょうかね、強引なところがございますでしょうかね。

【水澤副会長】

はい。クラブって言うと、いろいろスポーツクラブやなんかも含めて、多分、メンバーの中に得意な部分でその、いろんな指導ができる人たちもいると思うんですね。この大和地区に野球の、幼年野球の組織があったり、ジュニアがあったり、体育協会からも支援をいただいたりしている団体もありますので。

それから、大和、黒田小学校ですか、小学生のミニバスのクラブもあります。ただ、子どもがやっぱり少なくなっているんで、なかなか一つの協議団体で、小さいというか、狭いところでやるにはなかなか難しくなっているのは事実だと思います。

結構広域化してきていて、和田地区だけで子どもたちを集めてというのはなかなか難しい時代になってきているのではないかなと思いますが、ただやはり、和田区にはやっぱり大和、和田の二つの小学校がありますので、その二つの小学校の連携を取りながら、和田区の子どもたちにいろいろな支援をしていければと思います。

それと、スポーツだけではなくて、文化、音楽とかという部分でも、良い御提案をいただいたので、クラブに持ち帰って、またそんな話したいというふうに思います。

【横田会長】

はい。今の水澤副会長のちょっと御意見について、また皆さんから御意見ちょうだいしたいと思いますますが、大島委員さんのほうは多様な人々から寄っていただこうというのがキーワードだと思いますし、特に若い方からの参画ということなんですかね。

それから水澤副会長からお話のあった中で、二つの小学校の子どもたちの連携といますかね、そういった話も出たわけでございます。その辺が新しい事柄かなと思いますので、そう言ったことも含めて発言のなかった皆さん方から御意見をいただきたいと思いますが、八木委員さん、いかがですか。

【八木委員】

はい。前回の意見交換で一つにまとめていただいた中で、地域活動支援の事業で、他と比べて和田区は提案件数が少ない。地域活動支援事業がまだまだ知られていない、PRが足りないのではないかと。何年経って、まだこういうね、御意見が出る。皆さんの考え方だと思うんですけど。その原点に立ち返って、この部分はどうしよう、どういうやり方が良いのか、我々がみんなで意見を出し合ってこれの解決策というものを見つけなきゃいかん。

今になって思うけれども、やったほうが良いと思いますので、これをどういうふうにやったら良いのかという詰めが、次の段階で必要ではないか。

それと、同じことが、いろいろなアイデアがあるにも関わらず提案が出てこないのが残念というのだけれども、これはやっぱり先ほど言った、今まで、我々が本来PRをもっとやらなきゃいけないものが不足しているために出てこないんじゃないかということ、皆さんが感じているわけです。この辺をね、一番原点に立ち返って、よくやり方を今後スケジュール化してちょっと検討したら良いのではないかとということです。

【横田会長】

はい。非常に原点といますか、原則論、基本論のお話しをいただきました。重要だと思いますので、この辺についてまだ発言いただいていない、高島委員いかがですか。

今の八木さんの意見を含めて、御意見いただければありがたいです。

【高島委員】

八木さんの意見は賛成ですが、ただ、ここだけの問題ではないのですが、この中でほら、二番目にありますね、残額があればいつでも提案できるように見直してもらいたい。これは地域協議会全体のことだと思うんですけどね。

というのも、うちの町内でもって、今、新幹線開業のああいうようなイベントをやっていますが、あれはほんのちょっとしたみんなが集まった時の会議で、「なんかやったら」、「じゃするかね」、秋祭りで集まった時に、そんな話から始まったんですね。

だからそういうアイデアがあった時に、もっと皆さんが自由にこういったものを活用して、地域の活動の中の一つできるようにしてもらえばいいのではないかと思う。

「そんなん言ったって、もう今年の地域活動支援事業は終っちゃた」という、残念だったな、なんて、あれはつくづく感じまして。こういったものは、やっぱりここだけの問題じゃないからね。全体の中でこういった仕組みを、割り当てられた残額があったら、アイデアはいつ出るか分からないから、それが活かせるような場をつくっていただければと思います。

【横田会長】

はい、ありがとうございます。今の意見ね、ちょっと私を感じたことを申し上げて恐縮なんです。

やはり高島さんが言われた、町内会の中の身近な集いの中で、あるいはちょっとしたイベントの準備の中で、いろんなきっかけ、話が出てくる。それをキャッチしてどうだということと、もう一つ言われた、時期が外れちゃったと。「今、これはちょっと合わんのだわ」と。これは事務局とよく相談をして、お金が余って残額が半分くらいあってというので、いつものやり方で来ているわけですね。

ですから、私がともかく今回、市の説明でも大変ありがたいなと思ったのは、とにかく前広に窓口を広げて、思いつく段階、今高島さんが言われたようにちょっとした話題があった段階で、各まちづくりセンターへ来て相談してみてくれないと、話を出してみてくれないと。それは締め切った後とか、あるいはその前だとか、極端なことを言えば来月でも良いかもしれないわけですね。

でも、実際は予算が動かなきゃこうだから、このスケジュールはこうなりますよと分かれば良いので。常に市もそういう窓口を開くようになってきているようで、この間の会長会議のときにもありました。できることからやっぺいこうみたいな。だから、今、高島さんの言われた、何をやるかというプログラムと、それを動かす手法的にそういうものが、私は一つこう大事ではないかと思うのですが。せつかくの機会ですから、私の話ばかりでなくて、事務局のほうでもし、アドバイスがあればお願いしたいのですが。高島さんの言われたことは、非常に一つのキーワードですね。

【橋本センター長】

はい。事務局として今どうこうということは、まだ研究をしてみなきゃならない部分もあるかと思うのですが、高島委員が言われたように、今まではある程度時期を限って、その時期に皆さんに募集をしていただくという、これがワンパターンのやり方。どこの区でも同じやり方だったわけですけども。都度、年度を通じて都度受け付けるというのも、これも一つ、考え方はちょっと研究をさせていただきたいのですが、非常に私らも目から鱗みたいなのがございまして、この辺はまた是非研究をさせていただきたいなと思います。

また、具体的な内容等もまた、正副会長とも相談をさせていただきながら、皆さんにもまたお諮りをしたり、御相談をしたりという形でもっていけたらというふうに思っております。

【横田会長】

私が今、貴重な意見と言ったのは、都度受け付けるという意味じゃなくて、都度、相談の窓口になってもらう、事業の募集期間とかそういうことではなくて、何か良い話になったら、熱いうちに行って相談にのってもらおうと。それが翌年につながっても良いのではないかと、こういう意味で申し上げます。

では鈴木委員さん、今の関連の話の中でひとつ。

【鈴木委員】

関連の中ですが。身近な提案を受け付けてほしいと思います。

そこで、年明け早々には協議会だよりが発行されるようにしてますね。その中に是非、今回の説明のあった募集期間、今後の主なスケジュールが載ってます。これ

も是非入れてほしいなと思いますし、その時にできれば、事業提案の相談は随時メール受け付けしますくらいあっても良いのかなと思います。協議会だよりも、是非今後の主なスケジュールを載せてほしいなど。その中に、事業提案の相談は随時受けますよというようなところを付け加えておいてもらえればなおさら良いのかなとそのように感じました。

【横田会長】

はい、ありがとうございます。時間も参りましたので。二番目はどちらかというと、こういうやり方をやっていくと、もっともっと説明も行き届くし、理解もしてもらいやすいのではないかと、きっかけも広がるなという手法の話だったと思います。ここは制度の取扱いのこともありますので、センター長が言ったとおりですね、この辺をまたまとめていただいて、技術的な点も検討してもらったりしながら。

ただ私は、今日もセンターのほうと電話のやりとりで議論を、議論というか相談をしたのですが、やっぱりこの制度というものは、地域の主体的な活動をということを行っている以上は、できるだけ幅広い手でしたほうが良いんだろうなというのは、これはやはり基本だと思っておりますので、今申し上げたとおり、皆さん方のこういった御意見、今、5人の方からいただきましたかね。手法的なことについて、技術的なことも含めてセンターのほうで詰めてもらいながら、さっきの一番目のプログラムとつなぎ合わせていけるような取組みをしていったらどうかなというふうにまとめたいと思いますが、そんなところでいかがでございますかね。

これをもって全ていいんだとはならないので、常に努力しながら、変更したり見直したりしながら、これを続けていくということが大事ではないかと思っておりますが、そんな姿勢で向かっていくということでもよろしいですかね。

具体的には段取りした段階で、またもう一回、皆さんに相談差し上げるということでもよろしいですかね。

はい。ではですね、まとめ方が下手で申し訳ないんですが、地域活動できるだけ活発にという点については、これで一つ終わらせていただきます。

次に、資料の2ページになりますが、「和田区のこれからを考える」という話になります。これについてはですね、30分くらいですから8時15分くらいまでですね、ちょっと寒い時間もありますけど、早く終わっても良いので、そん中で意見

交換に入らせていただきたいと思います。

この資料の中に、御覧のとおり2ページには、大和倶楽部との10月23日の懇談、四つのカテゴリーからそれぞれ御提案いただいております。一言でまとめれば、和田区は発展性の高いところではないかということと、そして人が広く多く集まるほうではないかと、こんな話がこの中に入っているのではないかと思います。

それから次に、3ページのほうは、創造行政研究所との意見交換11月6日、先ほど御紹介したとおりでございます。個々に申し上げませんが、ここに書いてあることについて、今日ここで、これからこんなことをやっぱり考えるべきではないか、話し合うべきではないかと、いわば、前回は動向とか現状の話であったとすると、今日は課題の発見とその設定といいますかね、課題の抽出みたいなところを、今日この中で皆さん方と話し合っただけであればありがたいなと思っております。

まとめとしては、今日をもってこの関係が全て終わるのではなくて、それをまた次への継続につないでいくというふうに思っております。そんなことで、これから時間の中で、和田をどう考えるか、その課題について、二つの懇談、あるいは研究所との意見交換を使いながらですね、先ず大和倶楽部の四つの課題のほうから、これから意見交換に入りたいと思いますので、ちょっと長くなりましたが、よろしくお願いたします。

2ページの新幹線、それから今後のまちづくり、地域のリーダー、先ほども出てまいりました、それからその他、こういったことについて御意見をいただきたいと思います。いかがでございますか。

みんなで声を出し合うということで、今度、前川委員さんのほうからいかがでしょうか。もしあれでしたら次、ちょっと時間が経ってからも結構ですから。あるいは今度、高島さんからいっていただいてこうジグザグに上がってきても良いかなと思いたしますが。順不同です。

先ず10月23日のここに書いてある事柄をせつかくですからベースにして、この中での課題を一つでも二つでも設定できれば。

はい、植木委員さん、どうぞ。

【植木委員】

ここにも載っているのですが、実際に新幹線の駅の駐車場の無料化についての意

見が当日出されました。

和田区の地域協議会の予算の今までの執行状況の中では、新幹線の開業に伴うイベント関係というのがかなりウェイトを占めて、大きな予算配分となっていたわけですね。開業がもう本年度実施になるので、開業イベントという使い方の予算配分はもうないわけですね。相当な金額が次年度以降の予算枠として、それ以外の提案は今までほとんどないような状況があるわけなので、この駐車場の無料化に伴って、予算を使う何かできないかなというふうに個人的には考えるのですけれども。

具体的に駐車場をどこが管理してどこが収入を得る形になっているのかにもよってくるのだらうとも思うのですけれども。そこら辺はちょっと私、内容がよく分からないものですから、どういう方向になるのかなとちょっと思っているのです。

【横田会長】

今おっしゃったのは、駐車場は非常に大事だと。

【植木委員】

はい。

【横田会長】

したがって、それがより駅に人が、利用され集まるようにという意味でおっしゃっているわけですね。

【植木委員】

はい。

【横田会長】

そこからは、この中でどなたか話していただける方、情報をお持ちの方いらっしゃいますか。

あるいはないとしたら、事務局の中であれば話していただいて、また今日ちょっとあれでしたら預かりの話にさしていただいても結構ですね。

【橋本センター長】

私どもは詳しい情報を持っているわけではございませんけれども、基本的な部分として市が設置をしています。それから市が料金徴収をして、最終的には市の会計の中に入るというのは間違いがないと思います。ただ、その管理の形としてですね、例えば指定管理であるとかいろいろなやり方がございますので、その辺はどういう

形態を取るのか、ちょっと詳しいことは分かりませんが、いずれにせよ市が設置をする、市の責任で管理をしていくという事は変わらないということです。

【横田会長】

管理者は市ですね。基本的には管理責任は、市があるという話ですよ。実際もうちょっとその辺は。じゃこれは一つどうでしょうね、今度、そういうところから来て話してもらうのか、何らかの事務局のほうで解答をしてもらうのか、ちょっと預かりにさせていただいて。ただそのおっしゃっている意味は、駐車場の関係の、新幹線の関係の、できるだけ多くの方が寄りやすいようにというような意味でおっしゃっているわけですよ。

【植木委員】

それに伴って、例えば和田区の予算の一部をその駐車場の無料化のためのあれに、市が払って市がもらうという格好になっちゃうんですけども、それがこの地域の発展のためには必要な経費なのかなというふうに思ったんです。

【横田会長】

技術的なこと、制度的なこともいろいろありますのでね。ではそれは、そういう意味も含めての内容が先ずどうなのかという御照会事項ということにさせていただきます。

【八木委員】

私のほうからちょっと。新幹線のほうはお陰様で本体、それから駅舎の工事につきましては、皆様方の御協力でつつがなく進みました。来年の3月14日開業という形に。

そして、この駅は、広域の、要するに玄関口ということは、上越、妙高、柏崎、十日町、それから佐渡、これらを含めた広域の玄関口と。この大和地区、脇野田、こういう考え方じゃなくてね、そういったことで今、上越市そして上越商工会議所、これらが中心となって、いろいろな施策を取っていくということでございます。

それから、そのたくさんの人たちから来ていただくのと、またこちらから金沢、東京方面へ出掛けていくというものの施策というものについてもいろいろと計画されておりますし、地元の人たちにも是非とも利用をお願いしたい。そして開業については、そういう5市の広域連携会議が中心となって、いろんなイベント、催し、

こういったものやっていると。

それから、ちょっと出ました駐車場のあれは、今もう始まっていますけれども、有料、無料化という提案もありましたけれども、それはね、また、どの程度の利用台数になるか実際開業してみて、日によってはかなりの量が利用されるものと期待しているんですけれどもね。東西に駐車場が確保される。そういった意味で、ここ一つのあれじゃないんだと、広域の玄関口なんだということでもますます発展するように期待をいたしております。

【横田会長】

新幹線だけでなく、他のこともありますので、ひとつ。どうでしょうかね。四つある内の新幹線の話が出て、皆さん関心あるんでしょうね。ただ、これについては、私の記憶ではこうなんですよということを、市のほうから格別説明聞いたことがなかったような気がするんですよ。勉強会はね。その辺は関心がおありなら、おありならってみんなあるんでしょうね。またちょっとこう考えてみることもあるのかもしれないですね。

続いて他の方、いかがでございますか。

大和倶楽部の懇談のほう、時間も迫っていますので。あと一人か二人くらいで。それから簡潔に御意見をいただくとありがたいなと。今日は具体的にですね、できることを見出していきたいなと思っておりますので、よろしく願いいたします。あとお二方くらい、いかがですか。例えば「農村と雪との共生」を目指したという、そういうテーマもありますし、いろいろあるのですが。

いかがでしょう。

小林さん、いかがですか。

【小林委員】

そうですね。私が一番、常に思っているのはこの雪の問題が…、まあ思ってるんですけど。この魅力あるまちづくりといいますかね、地域をつくるということでは、雪の心配なく生活できるというか、そういう地域を目指すというのが良いかなと思っておるのですけれどね。

具体的には、この場合ですと雪と共生するといいますか、雪を利用するといいますかね、ここの特長を活かすにはやはり雪かなと思いますので、例えば駅周辺で雪

まつりのようなものを作って、地域住民が楽しむと同時に、他からもね、見に来ていただけるような、そういうイベントにしてったらいいんじゃないかなというふうに思います。

【横田会長】

ありがとうございました。副会長、どうですか。

今の雪の視点というのは、私は非常に大事ではないかと。ここは雪の深いところ、それも含めて。

【水澤副会長】

雪国ですし、何万年も前からこういう環境にあるわけですから。やはりここでずっと暮らしてきた人たちがいるわけですよ。雪を全部溶かす必要はないと思うんですね。せっかく素晴らしい雪景色があったりするわけですから、それを活かしたことで、そこで生活したり、そこで生活したいと思えるようなやっぱりまちづくりをすることが、それがこれからの課題なのではないかなというふうに思います。

それと上越地域の中でも、特に上越市の中でも、13区ありますけれども、やはり旧市の中では一番雪の多い地域だと思いますし、直江津地区から見たら住みづらいたらうと思われる人が多分多いのだと思いますけど、でもそうではなく、やはりこの雪を上手く利用して、それから雪景色を有効に使ってやっぱり、いろんなことができれば、また住みやすい雪国になるのではないかなと思っています。本当に、雪と農村も含めて、今までの和田地区の良さというものを活かしていければ、もっともっと良くなるのではないかなというふうに思っております。

【横田会長】

はい、ありがとうございました。この四つの課題の中で、雪が困ったということではなくて、親しむとか利雪とかっていうですね、資源に考えていくというのが、今、お二方の共通の御提案だと思います。もうお一方だけ、この雪の特性について是非発言したいなということがあったら、どなたか。よろしいですか。

鈴木さん、いかがですか。

【鈴木委員】

そうですね、直接関係するかどうか分かりませんが、今後とも情報交換が大切になるという切り口から考えて、特に和田地区は妙高市の和田地区。畦一本で境

目接していますので、ここら辺の情報交換なり、集まりを計画してみたらどうかと思います。

【横田会長】

はい、ありがとうございます。非常にこう新しい視点の中で、今、お三方からお話しいただいたのは、いわゆる雪の特性を認めて前向きに活用するまちづくりを考えようと。そして、最後、鈴木さんからは、むしろ妙高のほうの特性も合わせながらみたいなお話もあったと思います。まったく私は、これは和田のこれからを考える上で、一つの新しい重要な視点ではないかという感じがしなくはない。ただ、私の意見は別にして、こういった御意見をお三方から出てきたので、この辺も含めて、この辺を中心にですね、次のまた、今回の課題として設定するという御了解いただくということでもよろしいでしょうか。次の議論に繋げていくということでもよろしいでしょうか。

具体的な話を出していただいてありがとうございました。残りの時間になりますが、今とも関係するのですが、創造行政研究所の意見交換、3ページのほう、これもですね、答えを今日出すわけではなくて、できるだけ具体的な課題を発見して、決定したいと。そして、それをまた継続審議していきたいと、そのことが、今度、市に要望する自主審議事項にもつながっていくのではないかなというような期待もなくはないので、是非これから残りの時間を、話をさせていただくとありがたいなと思っております。

共通してこの中で言えるのは、楽観的で、悲観的ではなくてですね、良くなっていく可能性を持った地域だということを、皆さん方は大体おっしゃっているのではないかなと思うんですよね。そこを大事にさせていただくとありがたいと思っております。どうぞ、いかがでございますか。

前のほうへ戻っていただいても結構ですし。これも一つ課題としようよということ、今日見出していただければ会議の目的があったかなと思っております。

いかがでございますか。横田さん。

【横田委員】

私の同級生とか後輩も、やはり一回、働き口を探すとどうしても長岡、新潟、都会へ行く人が多いのですが、そういう点では和田区だけではなくて上越市の問題か

もしれませんが、やっぱり働く場所が増えない、増えないという職種が限られるとかですね、特殊な職種だとどうしても長岡、新潟へ行かないと仕事がないという面があるので。ここで話すのもあれかも分かりませんが、人が増えれば当然働き場所も増えるのでしょうけれども、働く場所をどうしたら増えていくのだろうというのもちょっと議論の一つにさせていただきたいなと思います。

【横田会長】

はい、これも重要なこと。この間の高齢化の問題も含めてですね、こういった働き場というのは非常に重要だと思うので。このことについて、他の皆さん方いかがですか。

高島さん、いかがですか。今の横田委員の働き場の御提案を含めて御意見いただければ。

【高島委員】

やはり働く場、働く場があればそこに人が生活する、生活すれば周りが賑やかになる。そういう好循環をするような環境をつくっていかなければならない。

今のこの新幹線、先ほどから言っていますよね、これを機会にして、そういった人が集まってくれるような、そういうものがほしいって、皆さんでアイデアを出してくださいと言ったほうが良いと思いますね。黙っていれば、右肩下がりになる。良くて今時代は、平行線を抜けられないですからね。それぞれの立場でもって知恵を出し合ってそういうことを克服していく、地域の発展のために取り組んでいけたら良いなと思いますね。

先ほどから出ていますが、雪だとか農村を活かしたまちづくりとか、ありますよね。でも、何か若い人の働くような場所、それがやはり一番の解決策にもなってくるんじゃないかと思います。

【横田会長】

はい、ありがとうございました。今、お二方からいただきました働き場、それから相互の循環関係、こういったお話をいただいたわけです。その中に、新幹線の駅周辺の土地利用の話も含めてだと思えますよね。

これについて、皆さん方、いかがだと思いますか。

前川さんいかがですかね。今の働き場の問題。

【前川委員】

働き場は第一なことは第一だと思うんですよ。ただね、前のあれと一緒に考えていきたいのは、新幹線がこの地区の核になることは確かだと思うんですよ。その核になるものについて、周りがどういうふうな反応をしてくれるか、例えば、さっき言ったように、駐車場の無料化、これは絶対必要だと思うんですよ。人を呼び込むためには、今はこんな時代ですから、金を取って停めてというよりは、無料にしてお客を集める、あるいは、周りから人が集まってもらうには、こういったものから始めなきゃいけないというふうには私は思っていますし、そういうことも、いろいろな場所にも発言したことがあるんですけども。それが残念ながら、有料化になってしまっているところがあるんですけども。

そしてここに出ているように、大きく変わる可能性があるということで、若い人たちが中心となって、広くこの地区を良くしていきたい。そのためには何が必要かということ、やはりリーダー的なもの、リーダーの人がやっぱり不在だということです。

ですから、例えばの話、大和倶楽部の皆さんが中心になって、いろいろな面で広げていくと、そういった人たち、リーダーがやっぱり必要になっていかないと、なかなかその周りの人が任すよ、あの人に任せる、この人に任せるという気持ちがやはりあるので、積極的なものがやっぱり。リーダーがまとめて、じゃ、やろうという方向に結び付けてもらいたいなというふうに思いますし、そのためにやはり、和田地区全体が盛り上がっていかないと、という考えでございます。具体的に細かく言うと時間が長くなっちゃいますので、そういったことで、新幹線を核として和田地区を盛り上げるためには、時間が必要だと。はい。

【横田会長】

働き場、これも若い人のことを考えるという御意見だったと思います。それから、いろんな人が集まる、そういった循環環境をつくっていくと。それで前川さんがおっしゃったのは、働き場であるんだけど、それはやっぱり、若い人とかリーダーを見つけて育成していく環境をつくらうというお話だと思います。

実はこのことは、先ほどの取り組みの中にも出てきていることなので、やっぱり若い人に活躍してもらいやすいような環境をとという主張ではないかと思えますよ

ね。機会をつくろうとか。

そこで、水澤さん、いかがでございますか。

【水澤副会長】

そうですね、年寄がだめなんじゃなくて、素晴らしいお年を重ねた方が多くいる地域だから、若い人もまた活かせるというか。だと思っんですよね。

本当に、この地域は私も来てみて、やはり大勢のやっぱり年配の方々、一生懸命やっていた方が多くいらっしゃると思います。他の地域に比べたら、本当に多いんです。だからやはり核家族化にもなっていない部分があり、その分若い人たちにもいろんなことを伝承できているんじゃないかなということも思っています。もっとその若い人たちが生き活きと意見を言えたり、またその活躍する場があるようなことも、これからできていく地域だと思いますし、私たち大和倶楽部もそうなんですけども、やはりいろんな先輩たちから受け継いだことを引き継ぎながら、若い人たちが活動していける。そういう歴史があったんですから、他のいろんな団体もそうだし、各町内もそうだと思うのですけれども、若い人たちを育てる意識がある人たちが大勢いると思うので、是非その若い人たちにも、こう意見をね、言える場があったり、活動できる場を提供できるようになれば素晴らしいのではないかと思います。その一役になればと思っています。

【横田会長】

はい。若いとか、年配、経験者か、年している方がという比較ではなくて、それがつながってバランスが取れているというようなお話だったと思いますし、創造行政研究所のこの間の人口問題、それから世帯のテーマについては、まさにそのことだったと思っんですよね。高齢な方、経験者の方、年配の方、若い人につながっているバランスが取れているというお話が、この間の内海研究員の一つのお話だったと思っんですね。そういう意味で、今、非常に重要な話なので、その辺をですね、この二つ目の和田のこれからというところの一つのまとめにもなっていくのかなと思っんでもないのですが。

いかがでしょう。最後、もうお一方だけ、今の水澤さんのおっしゃったこと、それから働き場、それから私も申し上げた、若い方が活動しやすい環境をみんなで作っていかうねというふうにお話だったというふうに申し上げたのですが、そうい

う意味で、どなたかですね、経験豊かな方でお話ししていただければありがたいなと思います。その辺で、このまとめにしたいと思っております。いかがでございましょうね。

八木さんでも、大島さんでもですね、経験者ということで。せっかく委員にいろいろ御指導いただいていますから、もしお話しいただければ。

はい、大島委員さん。

【大島委員】

とても良いお話、先般来出ているわけですが。特に今日のお話しの中でありました、いわゆる各町内からのリーダーのですね、皆さんの集まりというようなもの、これを先ず核にして進めていただければ、また新しい今の和田地区の若い人が元気良く、その生きがいを持って進んでいくと、あるいはまた、青少年の指導についても、精一杯、若い人たちが力を合わせてそれに当たるというようなことができるのではないかなと、そういうリーダー方々が出てくださるんじゃないかなと、そんなふう期待しているのですが。是非一つ、話は前のほうに戻ってしましますが、お願いしたいなというふうに思っています。

【横田会長】

はい、ありがとうございます。では時間も参りましたので、この辺でちょっと閉めたいなと思っておりますが。

いずれにしてもリーダー、それからそういった人たちが動きやすい環境づくりを地域のみんで考えていこうということを課題にしていいのかなと思っております。

そして、それを今度どういうふうに展開していくかというのがまだ見えないので、その辺はまた次の時も含めて議論いただいて、そしてそれは、言っただけで、話ただけで終わったのでは意味がないわけで、それはこの地域協議会の役割としては、地域のほうからの自主的審議事項として一つのものにまとめて、我々からの提言みたいなもので市にやっていくというやり方もあるのかなと思うんですよね。それが目指すものとして、今日はこの辺の課題設定したところで、話のほうは終わらせていただきたいと思っておりますが、いかがでございませうかね。

はい、どうぞ。

【高島委員】

この間の創造行政研究所の人の話を聞いて、和田地区で一番、唯一の点はね、つくづく感じたのは、確かに、上越市全体はみんな、各地はみんな人口が減っているのですが、長い間に。和田地区だけは人口がただいたいね、増減がなく平らなほうにできている。その第一は、やっぱりあれなんですね、家族的な地域だと。二世帯、三世帯でみんな生活をしている。やっぱりそういったところを、和田地区の良いところはやっぱり大事にしていったほうが良いと思いますよね。そこが一番のあれではないですかね。

今、社会全体でそういった環境が薄れているんですよね。それをやはり和田地区の中で大事にして、地域の特長として育ててあげたら良いと思います。

【横田会長】

はい。大変良い御意見をいただいたので、先ほど申し上げた中に、家の中のつながりとか、家と家とのつながりとか、そういったものがあるはずだから、それをこの中に加えていこうという御意見でよろしいですね。はい。じゃそれも含めて、ひとつこれから次の展開にいたら良いなと思っておりますので、一旦この辺で閉めさせていただきたいと思います。

時間が若干オーバーしている気がしますが、意見交換は、次もありということで、この辺で一旦閉めさせていただきます。ありがとうございました。

今度は、次第の6「事務連絡」に入らせていただきます。事務局のほうからお願いします。

【橋本センター長】

それでは、長時間どうもありがとうございました。事務局から最後、御連絡させていただきます。

先ず、協議会の次回の日程でございます。次回は1月開催を予定いたしております。日程につきましてですけれども、大変恐縮でございますけれども、本日皆様のお手元にお配りをさせていただきました日程調整表で調整させていただいておりますけれども、大変恐縮ですが、1月14日水曜日もしくは16日金曜日のいずれかで一つ調整をさせていただきたいと考えております。これにつきまして、皆さんの御意見をいただきたいと思いますので、御回答を12月15日月曜日正午までと

させていただいておりますけれども、御連絡のほうをお願いいたします。電話でもファックスでも何でも結構でございます。最終的に決定をさせていただいて、改めて開催の御案内をさせていただきたいと思っております。よろしくをお願いいたします。

それと地域活動フォーラムでございます。本日、チラシも再度お配りをさせていただいておりますが、12月14日、今週の日曜日でございますけれども、地域活動フォーラム開催の予定で準備をいたしております。出欠席については既に御連絡をいただいたところですが、当日飛び入りの参加もオッケーということで、是非、お知り合いの方々にも御勧誘をいただきまして、多数の御参加をお待ち申し上げます。なお、今回、地域活動支援事業の事例発表といたしまして、毎年4地区からいただいておりますけれども、一つは三郷区から、さんごう夏っ子クラブの事業でございます。これは地域の方々が、ボランティアで地域の子どもたちを育てていくという、こういった取り組みでございます。その他にも、例えば、高士区のお買い物ツアーというものがありますが、これはこちらの地域の今までのお話の内容と関連する部分もあるかと思っておりますけれども、お買い物弱者といえますかそういった方々への事業、こういった事例発表もでございます。

一方、また、名立区のマイ・ステーション作戦実行委員会ということで、駅を活かしたそんな事業をやっています。何かと参考になるかと思しますので、この辺も一つ御視聴いただければと思っております。

それから、地域協議会だよりの御案内でございますが、1月15日号、これは通算で20号になりますけれども、広報上越を併せて発行、配布を予定いたしております。内容につきましては、皆さんに既にお願いたしました、年度の御挨拶、あるいはこれまでの開催状況なども掲載する予定で準備をしております。

それと最後でございますが、新年祝賀会の開催につきまして、冒頭で御案内を申し上げますけれども、これは郵送で御案内をお配りしたところでございます。参加を御希望される方につきましては、これは会費を添えて、直接、市の市民課、あるいは南・北出張所、市民プラザの総合案内も直接受け付けておるということでございます。こちらのほうにお申込みいただければと思っております。新年祝賀会は、年を明けまして、1月5日月曜日午前11時から正午までということで、場所はリ

ージョンプラザ上越のインドアスタジアムでございます。なお、申込みにつきましては、12月15日の月曜日までとなっておりますので、この辺もお含みおきをいただきたいと思います。事務局からは以上でございます。

【横田会長】

はい、ありがとうございました。この会は年内これがもう…

【橋本センター長】

はい、これが最後になります。

【横田会長】

じゃ、時間、ちょっと5分早く終わったと思います。御協力ありがとうございました。意見交換については、意の足らないところがおありかと思いますが、会を重ねてより良くしていくということで御理解いただければありがたいと思います。

本日の議題はこれで全て終わったわけであります。今、お聞きすると、年内は格別これから集まることはないそうでありますので、どうぞ皆様方、良いお年を迎えていただければありがたいなと思っております。

だいぶ寒くなっておりますので、足元お気をつけてお帰りいただきたいと思えます。今日はありがとうございました。

9 問い合わせ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課

南部まちづくりセンター

TEL : 025-522-8831 (直通)

E-mail : nanbu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせて御覧ください。